

平成27年度

## 大阪府高視研と放送コンテスト委員会の歩み

大阪府高等学校視聴覚教育研究会

### 目次

大阪府高等学校視聴覚教育研究会事業報告	2
大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員、異動ならびに会員消息	3
<研修会・講座・講習会>	
C A I 講習会報告	4
施設設備見学会・放送クラブ指導者講習会	4
放送部顧問研修交流会	5
高校生のための放送技術講座	
平成26年度 高校生のための放送技術講座(Ⅳ)	6
平成27年度 高校生のための放送技術講座(Ⅰ)	8
高校生のための放送技術講座(Ⅱ)	10
高校生のための放送技術講座(Ⅲ)	13
高校生のための放送技術講座(Ⅳ)	14
<放送コンテスト関係>	
第62回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会	18
審査員及び運営スタッフ	21
大阪大会参加状況一覧	22
大阪大会決勝および全国大会結果一覧	24
第61回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会	26
生徒参加体験記 村上 美宮(大阪市立南高等学校)	27
<芸術文化祭関係>	
第36回大阪府高等学校芸術文化祭放送文化部門	28
第39回全国高等学校総合文化祭(滋賀大会)放送部門	29
第35回近畿高等学校総合文化祭(鳥取大会)放送部門	30
<資料編>	
コンテスト大阪大会決勝 審査委員長講評	31
公式サイト等のご紹介	36

## 大阪府高等学校視聴覚教育研究会 平成28年度事業報告

### (1) 総会及び研修会

#### ①総会

平成27年5月13日(水) 大阪市立中央高等学校

#### ②CAI研修会

平成27年7月29日(水) ビジュアルアーツ専門学校大阪

#### ③視聴覚施設設備見学会

平成28年1月27日(水) 日本写真映像専門学校

### (2) 講座及び講習会

#### ①高校生のための放送技術講座

第1回 平成27年 5月 3日(日) ビジュアルアーツ専門学校大阪

第2回 平成27年11月 8日(日) ドーンセンター

第3回 平成28年 1月24日(日) ビジュアルアーツ専門学校大阪

第4回 平成28年 3月20日(日) 大阪府立和泉総合高等学校

#### ②放送クラブ顧問交流会

平成27年11月 8日(日) ドーンセンター

#### ③放送クラブ指導者講習会

平成28年 1月27日(水) 日本写真映像専門学校

### (3) 放送コンテスト関係

#### 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会

平成27年6月 7日(日) 予選 大阪府立春日丘高等学校

平成27年6月21日(日) 決勝 大阪市立青少年センター

## 関 連 行 事

### (1) 大会及び研修会

#### ①平成27年度近畿放送教育研究協議会夏期特別研修会

平成27年 8月 7日(金) 滋賀県立命館大学草津キャンパス

#### ②第19回視聴覚教育総合全国大会・第66回放送教育研究会全国大会

平成27年 8月 4日(火)～ 5日(水) 東京オリンピックセンター

#### ③第64回近畿放送教育研究大会大阪大会

平成27年11月20日(金)

### (2) 第60回全国高校放送コンテスト全国大会

平成27年7月20日(月)～23日(木) オリンピックセンター、NHKホール

(3) 芸術文化連盟関係

①第39回全国高等学校総合文化祭放送文化部門

平成27年 7月31日(金)～8月1日(土) 滋賀県栗東市

②第35回近畿高等学校総合文化祭放送部門

平成27年11月22日(日) 鳥取県米子市

③第35回大阪府高等学校芸術文化祭放送文化部門

平成27年11月 8日(日) ドーンセンター

事業成果報告

- (1) 平成27年度「大阪府高視研と放送コンテスト委員会の歩み」は  
大阪高視研ホームページ (<http://www.kousiken.jp>) にて報告

---

大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員

会長	岩崎 判二 (府立桃谷高校長)	監査	杉野 正 (府立芦間高)
副会長	村田 徹 (府立高津高校長)	同	中村 進 (市立住吉商業高)
同	岡田 千明 (市立生野工業高校長)	同	阪本 純治 (桃山学院高)
同	安井 大悟 (相愛高校長)	同	大西 篤史 (相愛高)
		書記	緒方 稔 (府立桃谷高)
		同	小谷 和子 (市立扇町総合高)
		同	山中 華 (箕面自由学園高)
		会計	久下 哲也 (府立布施高)
		同	木下智恵子 (市立生野工業高)
		同	藤田 大輔 (阪南大学高)

役員異動ならびに会員消息 (平成28年4月1日現在)

伴 慎一 (大阪府立和泉総合高校) ……………府立今宮工科高校へ

## <研修会・講座・講習会>

### CAI講習会報告

研修部

1. 日時 平成27年7月29日(水)  
13:30~16:00
2. 場所 ビジュアルアーツ専門学校大阪
3. 内容 Premiereで映像編集実習
4. 講師 奥村 淳(VA大阪 放送映画学科長)
5. 参加者 9校 9名

VAで長年お世話いただいた石谷さんが退職・独立され、としおか学科長の後任となられた奥村先生が講師としてPremiereによる映像編集実習をご指導くださいました。昨年までは全日でしたが、今年は半日になり参加者も半分になりました。支援学校からも2名参加いただき、グループに分かれての実習にVAの先生方が付き添ってくださり、熱心な取り組みでした。奥村先生はじめVAの先生方ありがとうございました。

(大阪府立桃谷高等学校・通信制 緒方 稔)

### 施設設備見学会

### 放送クラブ指導者講習会

- 日時 平成28年1月27日(水)  
15:00~16:15 見学  
16:15~17:00 指導者講習会
- 場所 日本写真映像専門学校
- 参加者 11校 11名
- 案内 鯖田 明 SHASEN映像学科長

伝統ある日本写真映像専門学校(SHASEN)に初めてお願いしました。映像学科長の鯖田先生自ら案内役をしてくださり、スタジオ実習等を見学、門外不出の「シナリオ香盤表」(撮影の場所割り表)まで見せていただきました。おかがで実践的成果を上げました。

指導者講習会は、若い初めて放送部顧問となられた先生方の質疑に答える形で、各校の情報交換を密にしました。Nコンに向けてサポートも約しました。今後が楽しみです。

(大阪府立桃谷高等学校・通信制 緒方 稔)

## 放送顧問研修交流会

放送コンテスト委員会

この会は、2012年度から実施しており、本年度で3度目の実施となります。NHK杯全国高校放送コンテストにおける指導方法から日常の部活動について、あまり交流の機会のない他校の顧問の先生方とさまざまな点で情報交換をし、お互いに研鑽を深める目的で企画しているものです。

今回は「高校生のための放送技術講座(Ⅱ)」と同日開催とし、生徒引率で来られている先生方に少しでも多くご参加いただければ、という思いで開催しました。

近年は新しく放送部の顧問となられた先生も増えてきていることから、大阪高視研としても、何かお手伝いできないかと考え、まずは顧問の情報を共有し、各校が日々の活動を進める上で困っていることや協力を求めている内容等を集約することから始めました。

そのアンケート結果を基に話し合いを行い、意見の交換を行いました。

また、府立堺西高校における「PC再生の取り組み」をご報告いただき、クラブとして所有しているPCをできるだけ長期間有効活用できるように工夫しているということを情報提供いただきました。

その際、各校において、PCだけでなくミキサーをはじめとする各種機材の充実度合いについても情報の共有を図ってほしいという要望がありました。

さまざまな具体的提案も含め、活発な情報交換ができたと感じましたが、例年と同じくご参加いただいた先生方が少なかったのが残念でした(20人参加/府立10人・私立10人)。

お休みの日に生徒引率でかなりお疲れもあり、公私に日々多忙な先生方だとは承知しているのですが、生徒の発表の場、活躍の場を少しでも確保していくためには、顧問の先生方のご協力がなくてはなりません。

大阪高視研、放送コンテスト委員会としてもできる限りの協力を惜しみませんので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

(大阪府立今宮工科高等学校 伴 慎一)

# 高校生のための放送技術講座 報告

放送コンテスト委員会

高校生のための放送技術講座を年二回から四回に増やして開催するようになって5年、放送コンテストへの参加者も増加し、大阪府の放送部活動の活性化に一定の成果を挙げられたのではないかと考えています。これらはすべてコンテスト委員の先生方と顧問の先生方のご協力とご指導の賜物です。改めてお礼申し上げます。

ここでは、昨年度の最後の第4回技術講座から今年度の第4回の技術講座まで報告させていただきます。

## 1. 平成26（2014）年度高校生のための放送技術講座（Ⅳ）

### （1）概要

- ① 実施日時 平成27年 3月22日（日） 9：45～17：00
- ② 会場 放送芸術学院専門学校  
(〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋1-5-9 TEL0120-23-830)
- ③ 参加者 33校178人（25年度：24校110人。24年度：24校 108人）
- ④ 内容 6月に行われる第62回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会に向けての講座
- ⑤ 時程 9：45～10：00 受付  
10：00～10：15 開会式・連絡  
10：15～13：00 朗読発表大会  
13：00～13：45 昼休み・午後の受付  
13：45～15：45 放送技術講座
  - ① 朗読・アナウンス講座
  - ② 番組制作基礎講座15：45～16：00 閉会式・表彰、放送芸術学院のDVD

### （2）朗読発表大会 参加校 27校、112人。（25年度 24校、69人）

- ① 朗読箇所： 朗読箇所は、こちらから指定したところ（箕面自由学園の山中華先生にお世話になりました）から、ひとつ選んで朗読してもらいました。

1, 「山椒魚」 井伏 鱒二 著（新潮文庫）（屋根の上のサワン）239ページ3行目から
2, 「少年記」 外山 滋比古 著（中公文庫）（モモタロウ）62ページ7行目から
3, 「図書館の神様」 瀬尾 まいこ 著（ちくま文庫）174ページ1行目から
4, 「若草物語」 LM オルコット 著 吉川勝枝訳（角川文庫）358ページ1行目から
5, 「伊勢物語」 （五段）

- ② 審査員 審査会場が一つで、分けることができなかつたため、通しの審査員を4人、前半と後半だけを担当する審査員をそれぞれ3人で、審査していただきました。

通し	鎌田 潤 先生	(北摂つばさ高等学校・前高視研コンテスト委員長)
	田名瀬さゆり先生	(渋谷高等学校・高視研役員)
	松田 朋子 先生	(みどり清朋高等学校)
	山中 華 先生	(箕面自由学園高等学校・高視研役員)
前半	山田 雅勇 先生	(四天王寺高等学校・高視研役員)
	酒井 学 先生	(槻の木高等学校・高視研役員)
	伴 慎一 先生	(和泉総合高等学校・高視研役員)
後半	内野 洋子 先生	(プール学院高等学校・高視研役員)
	緒方 稔 先生	(桃谷高等学校・高視研役員)
	久下 哲也 先生	(布施高等学校・高視研役員)

③ 評価 7人の審査員が10点満点で採点し、70点満点で評価しました。

④ 結果 前半と後半から9人をA評価とし、優秀賞としました。

市立南	小西 麻公	こにし まひろ
箕面自由	大倉 裕司	おおくら ゆうじ
帝塚山学院	鷺田 夏海	わしだ なつみ
東海大仰星	福井 優佳子	ふくい ゆかこ
市立南	村上 美宮	むらかみ みく
四天王寺	大津 佳穂	おおつ かほ
四天王寺	中村 舞	なかむら まい
渋谷	中矢 周作	なかや しゅうさく
箕面自由	吉田 壱成	よしだ いっせい
大教大平野	多田 百合絵	ただ ゆりえ
市立南	田中 優希菜	たなか ゆきな
東海大仰星	荒木 幸菜	あらか ゆきな
四天王寺	永井 萌衣	ながい もえ
箕面自由	高木 悠佳	たかぎ ゆうか
市立南	山本 拓成	やまもと たくや
箕面自由	藤野 凌河	ふじの りょうが
旭	札野 優希	ふだの ゆうき (エントリー順)

一つの会場で行ったため、審査員の先生方には、3時間もの長時間の審査をしていただくことになりました。

(3) 放送技術講座 午後からは ①朗読・アナウンス講座と ②番組制作基礎講座を行いました。

①「アナウンス・朗読講座」 講師：鎌田 潤 先生 参加者113人

前コンテスト委員長で長らく放送コンテストに携わってこられた鎌田潤先生に、午前中

に行われた朗読発表会の好評をいただいた後、「理論派」鎌田先生の基礎的な講座をしていただきました。

「さ行に注意」「ら行の練習を」「滑舌が甘い」などと講評にかかれても、どうしていいかわからないという人に、発音・発声のメカニズムから練習方法まで、わかりやすく教えていただきました。4月からの新入生の指導にも役立つことと思います。

**この講座の資料は公式サイトにして公開しています。**

②「番組制作基礎講座」 講師：永田 知久 先生 参加者 61人

放送芸術学院の講師の永田先生の講座で、40人定員だったのですが、61人もの希望者があったため、急遽二教室をつなげた会場を作って下さり、全員参加できるようにしてくださいました。

講座では、生徒を四、五人のグループに分けて、グループごとに簡単な絵コンテに従ってiPhoneで映像をとって、実際に編集までしてみるという実践的な講座でした。生徒たちは嬉々として学んでいました。

どちらも時間が足りなくなり、特に②は2時間以上かかってしまったため、小畑先生にして頂く予定だった著作権の学習ができなくなってしまいました。

## 2. 平成27(2015)年度 高校生のための放送技術講座(1)

### (1) 概要

- ① 実施日時：平成27(2015)年5月3日(日) 9:30~16:00
- ② 会場：ビジュアルアーツ専門学校・大阪(大阪市北区曽根崎新地2-5-23 Ⅱ 06-6341-4407)
- ③ 参加校・参加者：35校204人(定員をオーバーしたため、締切後に申し込みのあった4校をお断りしました)(26年度：39校217人。25年度：34校175人。24年度：43校166人。23年度：37校 191人)
- ④ 内容：6月に行われる第62回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会に向けての講座
- ⑤ 参加費：一人あたり100円を当日徴収しました。
- ⑥ 時程 9:30~10:00 受付  
10:00~10:15 開会式・連絡  
10:15~12:00 放送技術講座  
①アナウンス・朗読基礎講座 ②テレビ番組制作講座  
③ラジオ番組制作講座  
12:00~12:50 昼休み・午後の受付  
12:50~13:00 開会式・諸注意・連絡  
13:00~16:00 放送技術講座  
①朗読講座 ②アナウンス講座 ※閉会式はありません



## (2) 午前 技術講座

### ① アナウンス・朗読のためのトレーニング基礎講座 参加者76人

講師 安田 知博 先生 (フリーアナウンサー・高校放送部インストラクター)

高校時代NHK杯全国高校放送コンテストアナウンス・朗読で3年連続優勝し、現在はNHK Eテレ「バリバラ」で副音声の解説放送を担当。全国20の府県で、高校放送部の指導やコンテストの審査に携わっておられます。

この基礎講座では、新入部員を優先して、各校3人までという制限をかけて参加してもらいました。内容は、放送部員としての自覚を深めるとともに声で伝えるために必要な基礎技術を確認し、短文を使った音読練習、マイクの使い方、簡単な原稿作成などを行いました。アシスタントに、大阪のコンテストで活躍した卒業生5人(北本君・田中君・中島君・山本さん・前田さん)を含む11人が来てくれました。

### ② テレビ番組制作講座 参加者28人

講師 としおか たかお 先生 (ビジュアルアーツ専門学校 放送映像学科 学科長)

学生時代から自主制作映画の製作・上映活動を行い、ベルリン映画祭カルガリ賞受賞作品「パラダイスビュー」の撮影で劇場映画デビューしました。以後数々の劇場公開作品の撮影・監督に携わっておられます。講座では、生徒の持ち込み映像をもとに、実際の作品作りのノウハウをご指導いただきました。放送映像学科新学科長の奥村先生も参加して下さり、NHKの編集を担当してこられた経験を活かしたアドバイスを頂くことができました。

### ③ ラジオ番組制作講座 参加者37人

講師 中井 勝久 先生 (大阪夕陽丘学園高等学校教諭・大阪高視研役員)

大阪の放送部員なら知らない人はいない!ご自身ももちろん元放送部員で現在はテレビ番組・ラジオ番組が毎年全国大会に出場する「強豪校」夕陽丘学園放送部の熱血顧問でもある中井先生の講座です。

夕陽丘学園の作品を実際に使い、SE(効果音)とBGM(バックグラウンドミュージック)について、その足音はいるのか等、具体的な事例を紹介しながら、ラジオ番組作りのノウハウを紹介していただきました。また、全国大会の規定から、審査基準・部門の規定なども説明されました。

**この講座の資料は公式サイトにして公開しています。**

## (3) 午後 技術講座

### ① アナウンス講座 参加者68人

講師 安田 知博 先生 (フリーアナウンサー・高校放送部インストラクター)

放送コンテストのアナウンス部門に出場する人対象にガイダンスの後、数名の公開レッスン、続いて自由練習を行われました。高視研の役員の先生方や学生アシスタントもはいつて、一人ひとりの原稿の作成から読みまで、きめの細かい指導をしていただきました。

② 朗読講座 参加者111人

講師 中村 宏 先生 (元NHK大阪放送局アナウンサー)

1977年入局。現在は、関西発ラジオ深夜便(NHK 第一 後11:15～前5:00) 1・3週金曜日をご担当。アンカーは6年目です。中学生の頃からラジオがお好きで、東京でも「ラジオあさいちばん」のキャスターを3年余担当しておられました。ここ数年大阪のコンテストでは、審査や技術講座ですっかり御世話になっています。

講座では、最初に中村先生のガイダンスの後、各校一名の個人指導をしていただきました。非常にレベルの違う生徒一人ひとりに対して、適切で丁寧な指導をしていただき、最後の生徒が終了したのは6時近くになっていました。中村先生の指導で、みるみる上達していく生徒たちを目の当たりにして、特に「顧問にとって」勉強になる講座だと実感しました。

(4) その他

- ① 番組制作講座の時間に、「NHK杯放送コンテストにおける番組部門の著作権処理について」を金剛高校の小畑先生に行っていただきました。「しっかり聞いておけば、これで著作権は『完璧』な素晴らしい内容でした。(箕面高校放送部顧問、深く反省しております)
- ② この技術講座から参加費を一人100円徴収することになりました。当日徴収としたため、受付を生徒だけに任せるわけには行かず、かなり気を使う作業になりました。

3、平成27(2015)年度高校生のための放送技術講座(Ⅱ)

(1) 概要

- ① 実施日時：平成27(2015)年11月8日(日) 9:45～16:00
- ② 会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) 大阪市中央区大手前1-3-49
- ③ 参加校・参加者：30校171人  
平成26(2014)年：参加校 26校 参加者160人  
平成25(2013)年： " 28校、 " 148人  
平成24(2012)年： " 21校、 " 111人  
平成23(2011)年： " 19校、 " 110人
- ④ 時程：9:45～10:00 受付  
10:00～12:00 開会式・一年生アナウンス発表大会  
13:00～13:30 午後の部受付  
13:30～15:30 午後の部・開会式  
技術講座(①アナウンス・②朗読・③番組製作)  
顧問交流会  
15:30～16:00 一年生アナウンス大会結果発表・閉会式

(2) 一年生アナウンス発表大会 参加校22校、参加者68人

平成26(2014)年:参加校19校、参加者73人

平成25(2013)年: " 17校、 " 82人

平成24(2012)年: " 19校、 " 61人

- ・ 昨年から2会場で審査することになりました。
- ・ 一昨年までは、NHK杯放送コンテスト大阪大会のアナウンス・朗読部門で入賞(全国大会へ進出)した人は、出場を遠慮いただいていたのですが、昨年から大阪府下の高校第一学年に在籍する生徒であればだれでも参加できることにしました。

- ① 審査員: A会場 秋本 みゆき 先生(大阪市立南高等学校・高視研役員)  
安田 知博 先生(放送部インストラクター・フリーアナウンサー)  
瓦林 朗 先生(東海大仰星高等学校・高視研役員)  
酒井 学 先生(大阪府立堺西高等学校・高視研役員)
- B会場 田名瀬 さゆり先生(大阪府立渋谷高等学校・高視研役員)  
平野 賢一 先生(近畿大学附属高等学校・高視研役員)  
谷 典子 先生(帝塚山学院高等学校・高視研役員)  
久下 哲也 先生(大阪府立布施高等学校・高視研役員)

- ② 評価: 各会場4人の審査員が100点満点で採点し、評価しました。

各会场上位5人をA評価とし、優秀賞としました。各会場6位以下29位まで24人をB評価、各会場30位以下の人5人をC評価としています。結果及び講評は高視研ホームページ上に発表しました。講評は、個人名は出さず、各会場の審査番号順に掲載しています。

- ③ 結果 「A」優秀賞とされた10人

A会場	府立旭	竹尾 和季	たけお かずき	男
	市立南	幸田 侑希	こうだ ゆき	女
	関西大倉	小和田 智代	こわだ ともよ	女
	聖母被昇天	河内 優歩	かわうち ゆうほ	女
	関西大倉	近藤 沙雪	こんどう さゆき	女
B会場	府立箕面	朝賀 しお莉	あさが しおり	女
	四天王寺	中谷 有里	なかたに ゆり	女
	四天王寺	高田 京香	たかだ きょうか	女
	府立成美	万殿 大空	まんだの つばさ	男
	聖母被昇天	細川 彩恵	ほそかわ さえ	女

(3) 放送技術講座

午後からは①アナウンス、②朗読、③番組制作の各技術講座と、顧問交流会を行いました。

① アナウンス講座：参加者71人。(昨年度61人)

講師 安田 知博 先生(高校放送部インストラクターフリーアナウンサー)

講座は、「原稿を書く時の留意点」というテーマで、①テーマ設定、②取材、③放送原稿にまとめる、④声に出して部会社も巻き込んでモニタリング、⑤実践練習、という手順で、他校の生徒同士でグループを作って取り組んだ。「一緒に放送原稿作りに取り組んで、他校の放送部員と友達になれて、すごいやる気が出てきた」という感想が聞かれました。

② 朗読講座：参加者52人。(昨年度65人)

講師 中村 宏 先生(元NHK大阪放送局アナウンサー)

講座は、「アナウンスと朗読のポイント」・「読む&話す」基本というテーマで、講義の後一人ひとりの朗読を聞いて個別指導をしていただきました。それぞれ違う課題を持つ生徒達に的確に指導してくださり、みるみる見違えたようになっていく姿に目を見張りました。

③ 番組制作講座：参加者44人(昨年34人)

講師 大阪芸術大学放送学科1回生

瀬古 千絵 先生 栗田 雄一 先生

佐々木 宏紀 先生 大橋 優香 先生

瀬古さん・栗田さんは、松商学園高校の出身で、昨年高校3年生のときには、NHK杯全国放送コンテストラジオ部門で『キミといる未来のために』が3位になりました。

佐々木さんは、広島祇園北高校の出身で、2014年の研究発表部門でNHK杯全国大会に出場しておられます。

大橋さんは、大阪夕陽丘学園高校出身で、2014年は、NHK杯全国放送コンテストラジオドキュメント部門に『男たちの叫び』で出場、近畿総合文化祭朗読部門で優秀賞を受けておられます。

そんな放送部育ちの4人がたまたま今年、大阪芸術大学放送学科で出会い、意気投合して、新しい活動を作り始めました。4人の先輩たちに、高校時代の作品の紹介・苦労した点、今現在の取り組みなどを熱く語っていただきました。現役高校生にとって、直近の先輩の話は、きっといい刺激になると思います。

☆ 栗田さんがマイク・録音などの技術を、佐々木さんは撮影手法を、瀬古さんは松商学園高校の活動の内容を話してくれました。大橋さんは総合司会兼コーディネーター役でこの講座を進めてくれました。実際の作品などを使ってこのように使われているという点、また撮影手法では、実際に放送されたニュースや結婚披露宴で使われている映像などを見て、「飽きさせない映像」作りのポイントが丁寧に話してくれました。

また、松商学園高校のラジオ作品からBGM・SEの重要性も先輩たちからの話でわかりやすく伝えられました。

(4) 放送部顧問研修交流会：参加者 20 人

伴 慎一先生(大阪府立和泉総合高等学校・高視研役員)、

酒井 学 先生(大阪府立堺西高等学校・高視研役員)

1、今年度のNHK 杯全国高校放送コンテストについて

・作品出品時の事前チェックについて

・全国大会の結果

2、高視研の今年度から始めた取り組み

・2015 年度顧問リストの作成

・各校顧問の先生・生徒向けアンケートの実施

・部活用 PC の再生協力

3、情報交換

4、平成 27(2015) 年度高校生のための放送技術講座 (Ⅲ)

(1) 概要

① 実施日時 平成 28 年 1 月 24 日 (日) 9 : 4 5 ~ 1 7 : 0 0

② 会場 ビジュアルアーツ専門学校大阪 (大阪北区曾根崎新地 2-5-23 ☎06-6341-4407)

③ 参加校、人数 参加校 20 校、参加人数 87 人 (参加申し込み 102 人)

④ 内容 6 月に行われる第 6 3 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト大阪大会に向けての講座

⑤ 参加費 1 0 0 円

⑥ 時程 9 : 4 5 ~ 1 0 : 0 0 午前の部受付 (アナウンス発表大会の原稿は受付時提出)

1 0 : 0 0 ~ 1 0 : 1 5 開会式・諸注意・連絡

1 0 : 1 5 ~ 1 2 : 0 0 二年生によるアナウンス発表大会

1 2 : 4 5 ~ 1 3 : 0 0 午後の部受付

1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0 放送技術講座

① アナウンス・朗読の技術講座

② ラジオ番組制作基礎講座

1 5 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0 閉会式・表彰

(2) 二年生によるアナウンス発表大会

内容は自作の校内ニュースとし、1 分 1 0 秒 ~ 1 分 2 5 秒程度のものを発表しました。

① 参加人数 25 人 (欠席 2 人)

② 審査員 秋本 みゆき (市立南高校 高視研役員)

鎌田 潤 (府立北摂つばさ高校 前高視研コンテスト委員長)

酒井 学 (府立堺西高校 高視研役員)

田名瀬 さゆり (府立渋谷高校 高視研役員)

平野 賢一 (近畿大学付属高校)

山本 武彦 (浪速高等学校 高視研役員)

③結果 優秀賞とされたのは以下の5人です。

1、市立南高校 田中 優希奈菜 (たなか ゆきな)

2、仰星高校 荒木 幸菜 (あらき ゆきな)

3、府立渋谷高校 小林 咲希 (こばやし さき)

4、市立南 谷岡 薫 (たにおか かおる)

5、プール学院高校 伊藤 沙織 (いとう さおり)

その他、3人を奨励賞、14人をB、3人をCとしました。

### (3) 放送技術講座

① アナウンス・朗読の技術講座部門 47人参加 (参加申し込み57人)

講師 鎌田 潤先生 (元高視研コンテスト委員長、大阪府立北摂つばさ高等学校非常勤講師)

(追手門学院大学 学習支援室 学習支援員)

いつもの練習を振り返り、「腹式呼吸」で「自分の声で普通にしゃべる」ことから確認していかれました。母音の出し方をあごの開きや舌の位置と盛り上がり方から確認し、続いて、サ行、タテト、チ、ツ、ラ行、ダデド、鼻濁音、母音の無声化など、発音に困難を感じやすい音を中心に、その音を出すための構造的な説明をしっかりとさりながら、実際に発音してみるという練習を指導していただきました。

② 番組制作部門 36人参加 (参加申し込み43人)

講師 仙石 承久 先生 (株ネットワークス851所属)

ビジュアルアーツ専門学校在学中より、先生の紹介でラジオ番組制作の道へ進まれ、現在はFM851のラジオ番組でディレクター・プロデューサーとして番組制作を多数手がけている仙石先生に、ラジオ番組の作り方を基礎から実践まで幅広く指導していただきました。

## 5. 平成27(2015)年度高校生のための放送技術講座(Ⅳ)

### (1) 概要

① 日時 平成28年 3月20日(日) 9:45~17:00

② 会場 大阪府立和泉総合高等学校

〒594-0082 大阪府和泉市富秋1丁目14-4 TEL 0725-41-1250 FAX 0725-45-8985

③ 参加者 25校88人(26年度:33校178人 25年度:24校110人  
24年度:24校108人)

④ 内容 6月に行われる第63回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会に向けての講座

⑤ 参加費 100円

- ⑥ 時程 9:45~10:00 受付  
 10:00~10:15 開会式・連絡  
 10:15~12:00 「朗読発表大会」  
 「PCよろず相談会」(午後も引き続いて開催)  
 12:45~13:00 午後の受付  
 13:00~15:30 放送技術講座(朗読)  
 15:30~16:00 閉会式・表彰

(2) 朗読発表大会 参加 23校76人(26年度:27校112人。25年度:24校69人)

- ① 朗読箇所:朗読箇所は、こちらから指定したところ(市立南高校の秋本先生にお世話になりました)から、ひとつ選んで朗読してもらいました。

1, 「カテーひよことコーヒー豆」 小川洋子 著 (小学館文庫) (思い出からやってくる人) P239 3行目から
2, 「流れ星が消えないうちに」 橋本紡 著 (新潮文庫) 62ページ7行目から
3, 「友情」 武者小路実篤 著 (岩波文庫) 174ページ1行目から
4, 「変身」 フランツ・カフカ 著/高橋義孝 訳 (新潮文庫) 358ページ1行目から
5, 「竹取物語」 (小学館・日本古典文学全集より)

- ② 審査員 審査会場ABで審査していただきました。

A会場 鎌田 潤 先生 (北摂つばさ高等学校・前高視研コンテスト委員長)

瓦林 朗 先生 (東海大仰星高等学校・高視研役員)

松田 朋子 先生 (みどり清朋高等学校)

久下 哲也 先生 (布施高等学校・高視研役員)

谷 典子 先生 (帝塚山学院高等学校)

B会場 秋本みゆき 先生 (南高等学校・高視研役員)

山中 華 先生 (箕面自由学園高等学校・高視研役員)

内野 洋子 先生 (金蘭千里高等学校・高視研役員)

緒方 稔 先生 (桃谷高等学校・高視研役員)

西川 和希 先生 (浪速高等学校)

- ③ 評価 5人の審査員が100点満点で採点し、500点満点で評価しました。

- ④ 結果 AB各会場から5人ずつを優秀賞とし、各会場6人ずつを奨励賞としました  
 優秀賞10人(エントリー順)

A会場 市立南 小林 瑞季 こばやし みづき

四天王寺 大津 佳穂 おおつ かほ

市立南 幸田 侑希 こうだ ゆき

四天王寺 小川 真由 おがわ まゆ

関西大倉 近藤 沙雪 こんどう さゆき

B会場	四天王寺	真柳 妃奈子	まやなぎ ひなこ
	プール学院	伊藤 沙織	いとう さおり
	北野	磯島 奈津江	いそじま なつえ
	旭	札幌 優希	ふだの ゆうき
	市立南	辻 彩音	つじ あやね

奨励賞 12人 (エントリー順)

旭 竹尾 和希、槻の木 林 愛海、プール学院 足達 菜月、  
 四天王寺 大川 堇、市立南 市坪 未羽、浪速 加藤 智彦、  
 布施 山部 由莉、東海大仰星 宮原 捷、帝塚山学院 浅野 綾、  
 夕陽丘学園 鬼頭 永真、槻の木 矢坂 光希、市立南 大久畑 楓

(3) 放送技術講座 『朗読の技術講座』(午後) 24校 84人参加

**講師 中村 宏 先生 (元NHK大阪放送局アナウンサー 1977年入局。)**

栃木県出身。京都在住。

午前中の朗読発表会を踏まえて、その作品の世界を作り出すため以下の点を中心にご指導いただきました。

- ①作品のテーマを理解し、作者のメッセージを考える。
- ②登場人物一人一人をどう性格付けするか。
- ③セリフとト書きのメリハリ。

朗読についてのレクチャーの後、各校一人の生徒が前に出て、指導していただきました。

中村先生は、初心者からかなりレベルの高い生徒まで幅の広い生徒に、それぞれに的確な指示と課題を与えて指導していかれます。他の生徒の練習をしっかりと聞いていた生徒たちは、後半の方になるにつれどんどん上達していきました。「個々の生徒に合わせた指導はどうするのか」は常に顧問として悩むところですが、中村先生の講座は、まさにその答えといえるもので、顧問にこそ一番勉強になる講座だと思いました。

(4) 放送技術講座 『PCよろず相談会』(午前・午後通し) 3校 8人参加

**講師 酒井 学 先生 (大阪府立堺西高等学校教諭・高視研役員)**

**伴 慎一 先生 (大阪府立和泉総合高等学校首席・高視研役員)**

今回新しく始めた講座です。作品を作るにも、まず必要なパーソナルコンピューター(パソコン/PC)の「よろず相談」に、視聴覚研究会の中でもコンピュータの「プロ」のお二人が乗っていただきました。放送部で使用・管理しているPCで、故障や不調のため、修理や廃棄を検討しているものを持ち込み、会場で直接点検し、状況を診断、可能な範囲で再生させていただきました。当日は放送部のOBも手助けに来てくれて、予定外の相談も持ち込まれ、まさに『みんなのやって欲しかった講座』だったのだと実感いたしました。予想以上に一件ごとに時間がかかり、担当の先生は一日中対応におわれました。



## 6、今年度の反省・気がついたこと

- ① 今年度から、コンテスト関係の要項や申し込みなど全て高視研のホームページから行うようにしていただきました。担当者は、要項の発送や申し込みの受付、参加者名の整理などの煩雑な作業から開放されました。感謝です。ただ、その分、高視研ホームページの管理をしてくださっている小畑先生には過重なご負担をおかけすることになりました。研究会内の仕事の引き継ぎ・分担など今後の課題だと痛感しております。
- ② ホームページからの申し込みにはなったものの、4月最初の通送での発送の時に、放送技術講座第一回の要項と年間計画を紙ベースで送るようにしました。ネットに完全に移るまでしばらくは続けた方がいいと思われます。
- ③ 今年度から参加費を100円徴収するようになりました。そのため受付に、江崙先生・藤田大輔先生・佐分利義和先生のご協力をいただきました。
- ④ ここ数年大阪では、大阪市の区民会館などの閉鎖が続き、ドーンセンターなどの公的会場の確保がほぼできない状況になっています。そのため、ビジュアルアーツ専門学校など民間のご協力で会場をお借りして、技術講座の開催を行ってきました。職員の皆様は、休日にもかかわらず出勤して、準備・進行にあたってくださるなど、感謝しております。ただ、専門学校の使用教室の制約から、参加生徒を制限しなければならなかったり、日程に制限が出たり、民間だけに頼って開催するのも無理があると痛感しております。今後の課題と考えています。

(文責 大阪府立箕面高等学校 加藤 奈穂)

## <放送コンテスト関係>

### 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会報告

大阪夕陽丘学園高等学校 中井勝久

表題の大会の予選を平成27(2015)年6月7日に大阪府立春日丘高等学校で、決勝を6月21日に大阪市立青少年センター(ココプラザ)で決勝が行いました。それについて、報告をします。

**予選** 参加校(エントリー) 55校 381名(作品) [内訳はあとの表1参照]

ここから 23校 84名(作品)が決勝に進出

審査員 [あとの表2参照]

### **決勝**

#### [アナウンス決勝課題]

きょうは「和菓子の日」です。大阪府内の和菓子店では、真剣な表情で食べるとこの1年健康に過ごせるという「笑わず餅」を販売しています。

6月16日は、平安時代に仁明(にんみょう)天皇が厄よけを祈願して16種類の菓子や餅を供えた日と伝えられ、全国和菓子協会が「和菓子の日」に定めています。

府内の和菓子店では、暑さの厳しくなる時期にも食べやすいよう、あっさりした味わいに仕上げた「笑わず餅」という菓子を「和菓子の日」に合わせて販売しています。

考案した大阪府生菓子協同組合は、しゃべらずに真剣な表情で食べるとこの1年、健康に過ごせるとしていて、門真市の和菓子店でも午前中から近所の人などが訪れて買い求めていました。

#### [朗読決勝課題]

のびやかに広がる美しい声、しみじみと沁みしてくる情緒、どこと云って文句のつけようはないのですが、でも、なにかものたりません。

「景色が見えてるかな」

「見えてる……と思うよ」

彼はイメージした絵を説明してくれました。イメージを絵にすることはできていたのです。

「足に何を履いているの？」

「え？」

私のとっさの質問に、彼は答えられませんでした。

(永井一郎「朗読のススメ」)

審査員<敬称略>

#### <アナウンス・朗読>

中村宏(NHK大阪アナウンサー)、瓦林朗(高視研役員:東海大学付属高校教諭)、

田名瀬さゆり(高視研役員:大阪府立渋谷高校教諭)、秋本みゆき(大阪市立南校教諭)、

西野宏美(大阪教育大学付属高校平野校舎教諭)、平野賢一(近畿大学附属高校教諭)、

松田朋子(大阪府立みどり清朋高校教諭)、安田知博(「放送部インストラクター」)

※瓦林先生はアナウンスのみ、秋本先生は朗読のみ

## <番組制作部門>

三鬼一希（NHK大阪放送局プロデューサー）、岩崎判二（高視研会長：大阪府立桃谷高校校長）、緒方稔（高視研役員：大阪府立桃谷高校教諭）、加藤奈穂（高視研役員：大阪府立箕面高校教諭）、佐々木孝夫（高視研役員・芸文連役員：大阪府立摂津高校教諭）、伴 慎一（高視研役員：大阪府立和泉総合高校首席）、戸野佑亮（大阪府立槻の木高校教諭）

今年度の特徴として、①参加校が50校を超えたこと、②朗読のエントリーが230名（昨年 197名）もあったこと、③研究発表に4発表のエントリーがあったことがあげられます。

①について、この10年の中でも一番多い参加校数ではなかったかと思われます。このように増えていくと、全国進出作品が2倍になるのですが…。②の朗読へのエントリー増がこれに関係しているのかなと思います。

②について、決勝での発表者数を考慮して、予選1会場から5～6名を決勝に進めました。エントリーが200名を超えた段階で、「朗読のみ準決勝を行ってはどうか」という意見もいくつかの放送部顧問の先生から伺いましたが、要項発表後の変更になることと、追加日程・会場・審査員の確保などの問題点もあり、先のような方法をとりました。

63回大会の状況も見て、64回大会以降の対応を検討していきたいと思います。

③について、60回大会から3大会連続で研究発表のエントリーがあり、毎回1校ずつエントリーが増えています。決勝での審査時間の関係で3発表分しか発表時間が取れないと言うことで、事前に提出された Cue シートから3発表を選びました。今後このような形で発表を選ぶのでよいのかということで、63回大会では条件付きで研究発表の予選を行うことを検討しています。

今回も参加校の顧問の先生方に、審査員や会場係としても関わっていただくことを行いました。昨年度も述べましたが全国大会でも「審査・運営に付き添いの顧問の先生方をお願いしたい」ということでしたので、大阪大会でもということで実施しております。次回以降も同じ方向で考えております。また、できるだけ多くの先生方に審査員をお願いできますよう、技術講座でも審査についての時間を取っていきたく考えております。

文化部の活動のため、顧問の付き添いに関して十分な理解を得られていない学校もあるようですが、近年は付き添いの顧問に役割をお願いすることは増えてきておりますので、事情をご理解いただきますようお願いいたします。

また、無理をお願いしたにもかかわらず、顧問の先生方にご協力いただいたおかげで予選がスムーズに進むことができました。ここにお礼申し上げます。

決勝では、NHKの中村アナウンサーと三鬼プロデューサーに審査員長をお願いしました。三鬼プロデューサーは、決勝の直前に大阪放送局に転勤になったとか。お忙しい中で長時間の審査をしていただきました。

**閉会式でお話いただいた「審査員長講評」は公式サイトに公開しています。**

各部門の昨年度と比較は次のとおりです。

部門	昨年度		今年度	
	学校数	エントリー数	学校数	エントリー数
アナウンス	29	97	27	76
朗読	38	197	44	222
ラジオドキュメント	6	10	9	13
テレビドキュメント	5	6	7	9
ラジオドラマ	19	33	18	33
テレビドラマ	4	8	7	13

ここからもわかるように、番組部門ではラジオドラマを除いて参加校は微増しており、参加作品数も増えました。一定レベルの作品ができれば全国大会へは近いのかなと考えられます。ラジオドラマは相変わらず30作品以上の参加があります。ラジオドラマに偏るのは、ドキュメントの題材が見つけれられない、取材ができない、まとめられないということと、「ドラマは脚本を書けばできる」と考えているふしもあるのかなと考えます。声優へのあこがれだけでラジオドラマに取り組んでいるのではと思われる節もあります。実際には編集が大変です。いろいろな権利処理も大変です。きちっとした準備が作品のレベルアップにつながるのかなと考えます。これが、これからの大阪の課題の一つではないでしょうか。

朗読が約30名の参加増に対して、アナウンスは約20名の減です。「取材は苦手」とか、「アナウンス原稿が書けないから」という朗読へのエントリーも多いのではないのでしょうか。朗読は、ただの「本読み」ではありません。作品の内容をしっかりと理解していないと表現はできません。だから朗読はアナウンスより難しいと思います。そこをいろいろな場面で訴えていきたいと思います。

決勝では、今回も卒業生に司会をお願いしました。開会式と朗読は大阪市立南高校の山本弥生さん、アナウンスと閉会式は大阪市立南高校の吉永鈴さんです。急な変更にもきちんと対応してもらえました。

また、コンテスト卒業生による「トークショー」を府立渋谷高校の田中涼さん、浪速高校三浦早絵さんの進行で行いました。たまたま来ていた卒業生にも舞台上がってもらおうなどしました。卒業生が各校でどのような活動をしているかも含めて、現役生との交流を深めました。

次回も、このような交流会を考えていきたいと思います。

第62回 NHK杯大阪大会 審査員及び運営スタッフ一覧

予選

	アナウンス		朗読1		朗読2		朗読3		
		所属		所属		所属		所属	
審査員	主審	田名瀬	府渋谷	秋本	市南	加藤	府箕面	久下	府布施
		平野	近大附	西野	附属平野	松田	府みどり	山本	東大谷
		勝見	プール	荒木	関西創価	奥本	聖母女	阿部	東海仰星
		神山	府三島	中浜	岸和田市産	島	信愛女	坂尾	府旭
		平田	あべの翔学	山本	浪速	清水	宣真	廣津	女子短
		松本	府旭	渡辺	箕面学園	谷	帝塚山	真野	府富田林
会場		池田	梅花	粟村	府港	高橋	府東百舌鳥	浅海	教育センター附
		井上	府大工専	内田	好文女子	樽野	常翔	池田	四天王寺
		岡崎	大阪学芸	島	府守口東	古川	府豊島	石田	府豊中
		木村	府今宮	田中	OSM	八畷	あべの翔学	田中	夕陽学
		福田	開明	長谷	被昇天	綿世	箕面学園	西川	浪速

	ラジオドラマ		テレビドラマ		ラジオドキュメント		テレビドキュメント		
		所属		所属		所属		所属	
審査員	主審	緒方	府桃谷	阪本	桃山学院	酒井	府堺西	佐々木	府摂津
	著作権	浜田	府成美	佐分利	府みどり	佐々木	府摂津	酒井	府堺西
		渡上	近大附	戸野	府槻の木	榎並	大阪学芸	榎並	大阪学芸
		伴	府和泉総	木岡	相愛	我那覇	府天王寺	我那覇	府天王寺
		堀	宣真	三輪	関西大倉	白石	府貝塚南	白石	府貝塚南
		渡辺	あべの翔学	大島	府池田	常盤	常翔	常盤	常翔
						安田	府高槻北	安田	府高槻北

決勝

	アナウンス		朗読		番組		
		所属		所属		所属	
審査員	主審	中村	NHK大阪	中村	NHK大阪	三鬼	NHK大阪
		田名瀬	府渋谷	田名瀬	府渋谷	緒方	府桃谷
		瓦林	東海仰星	秋本	市南	佐々木	府摂津
		松田	府みどり	松田	府みどり	戸野	府槻の木
		西野	附属平野	西野	附属平野	伴	府和泉総
		平野	近大附	平野	近大附	加藤	府箕面
		安田	放送部インストラクター	安田	放送部インストラクター	岩崎	府桃谷

表 1

## 2016/5/5 第 6 2 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト

受付 番号	学 校 名	略 称	顧 問	参加 人数	研究発表会			アナウンス			朗 読			
					参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	
1	市立堺(定)	市堺定	伊関 和弘	3										
2	府立港	港	粟村 みゆき	3								3		
3	宣真	宣 真	清水 明澄	6								6		
4	府立箕面	府箕面	加藤 奈穂	5	1			2				2	1	
5	聖母被昇天学院	被昇天	長谷 智美	7				1	1	1		6	2	
6	市立南	市立南	秋本 みゆき	18								18	5	2
7	箕面学園	箕学園	綿世 徳光	1				1						
8	府立今宮	今 宮	木村 和男	5				3				2		
9	府立渋谷	渋谷	田名瀬 さゆり	4				3	3	2		1	1	1
10	相愛	相 愛	木岡 義人	2				1				1		
11	関西大倉	大 倉	三輪 淳司	20				2	1			5	1	
12	四天王寺	四 天	山田 雅勇	27				9	4			18	8	2
13	梅花	梅 花	池田 正道	18				5	2			13	3	
14	府立旭	旭	坂尾 麗子	8				3	1			5	2	
15	常翔学園	常 翔	常盤 幸利	13										
16	帝塚山学院	帝塚山	谷 典子	3								2		
17	府立和泉総合	和泉総	伴 慎一	6										
18	東海大学付属仰星	仰 星	瓦林 朗	12				12	6	1				
19	浪速	浪 速	山本 武彦	17				5	1			6	1	
20	府立みどり清朋	みどり	松田 朋子	3				1				2		
21	英真学園	英 真	古川 尚美	3				1				2		
22	府立守口東	守口東	島 隆二	3								3		
23	府立大学工専	工 専	麓谷 安正	2								2		
24	府立高槻北	高槻北	安田 正彦	4								2		
25	関西創価	創 価	三次 豊	1								1		
26	大阪学芸	学 芸	榎並 徳次	14								14		
27	好文学園女子	好文	内田 実里	5								5		
28	府立豊島	豊 島	古川 智子	2								2		
29	府立豊中	豊 中	石田 省三	7				1	1	1		3		
30	府立堺西	堺 西	酒井 学	6										
31	府立富田林	富田林	真野 敏子	1								1		
32	聖母女学院	聖母女	奥本 信子	2										
33	府立三島	三 島	神山 達志	6								5		
34	府立成美	成 美	浜田 佳樹	8	2	2	1	5	3	1		1		
35	府立金剛	金 剛	小畑 敦彦	8										
36	府立天王寺	天王寺	我那覇 剛	11				3	1			8	1	
37	あべの翔学	翔 学	八嵐 誠	5								5		
38	大阪女子短期大学	女子短	廣津 麻美	7								7	1	
39	大阪夕陽丘学園	夕陽学	中井 勝久	17	1	1	1	8				2		
40	桃山学院	桃 山	阪本 純治	17				1	1			11	1	
41	大教大附属平野	附平野	西野 宏美	2				1				1		
42	箕面自由学園	箕面自	山中 華	16				1				15	3	
43	岸和田市立産業	岸産業	中浜 彩香	2								2		
44	教育センター附属	教C附	浅海 文雄	4								4		
45	府立東百舌鳥	東百舌	大島 正道	4								4		
46	信愛女学院	信 愛	島 敏	7				1				6		
47	プール学院	プール	勝見 昌浩	3				1				2	1	1
48	(欠番)													
49	府立池田	池 田	大島 芳明	6										
50	スクールオブミュージック	OSM	田中 涼子	4								4	1	
51	近畿大学附属	近大附	渡上 太朗	26				1	1			7	1	
52	府立槻の木	槻の木	戸野 佑亮	8				1				5		
53	府立布施	布 施	久下 哲也	3								1		
54	府立貝塚南	貝塚南	白石 博則	7				2				5		
55	開明	開 明	福田 和義	8								8		
56	東大谷	東大谷	山本 通江					3				2		
		学 校 数			3	2	2	27	13	5	46	16	4	
		総 数		410	4	3	2	78	26	6	230	33	6	

大阪大会 参加状況一覧

ラジオドキュメ			TVドキュメ			ラジオドラマ			TVドラマ			合計		
参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表	参加	決勝	代表
									1			1		
												3		
						1						7		
			1	1	1	1						7	2	1
												7	3	1
												18	5	2
												1		
						1						6		
												4	4	3
						1						3		
						3			1	1		11	3	
5	1	1				3						35	13	3
												18	5	
						1						9	3	
1						2						3		
												2		
									2			2		
			1	1	1	1						14	7	2
						1						12	2	
												3		
												3		
												3		
												2		
									2			4		
												1		
												14		
												5		
												2		
			1			1						6	1	1
1	1											1	1	
												1		
						1						1		
												5		
1	1	1	1	1		4	2	1	2	1	1	16	10	5
1									1			2		
												11	2	
												5		
												7	1	
1	1	1	1	1	1	1						14	3	3
						2						14	2	
												2		
1	1		2	1	1	4	2		4	3	1	27	10	2
												2		
												4		
												4		
												7		
												3	1	1
												0		
						1						1		
												4	1	
						2	1					10	3	
			2			3	1	1				11	1	1
1	1	1										2	1	1
												7		
						1						9		
												5		
8	6	4	7	5	4	20	4	2	7	3	2	55	23	13
12	6	4	9	5	4	35	6	2	13	5	2	381	84	26

## アナウンス部門

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	16	渋谷 小寺	希実 さん	準々決勝まで
2位	3	仰星 福井	優佳子 さん	準々決勝まで
3位	1	渋谷 小林	咲希 さん	準々決勝まで
4位	19	豊中 寺澤	穂乃香 さん	準々決勝まで
5位	23	成美 南部	真衣 さん	準々決勝まで
6位	2	被昇天 出原	桜子 さん	準々決勝まで
入選	15	旭 稲垣	瑞穂 さん	
入選	17	成美 椎木	竜太郎 くん	
入選	20	梅花 中越	采子 さん	
入選	26	四天 富永	知里 さん	

## 朗読部門

大阪結果	審査順	学校名	参加者名	全国大会結果
1位	29	市立南 田中	優希菜 さん	準々決勝まで
2位	20	市立南 村上	美宮 さん	準々決勝まで
3位	33	四天 大津	佳穂 さん	準々決勝まで
4位	28	プール 稲田	緋奈 さん	準々決勝まで
5位	30	四天 瀧	優華 さん	準々決勝まで
6位	13	渋谷 中矢	周作 くん	準々決勝まで
入選	3	箕面自 吉田	壺成 くん	
入選	11	梅花 深澤	苑夏 さん	
入選	27	箕面自 大倉	裕司 くん	
入選	32	被昇天 横内	若菜 さん	

## ラジオドキュメント部門

大阪結果	審査順	学校名	作品名	全国大会結果
1位	4	四天	オンナノコのチカラ	準々決勝まで
2位	5	布施	図書館危機	準々決勝まで
3位	3	夕陽学	低身長系女子の希望論	準々決勝まで
4位	6	成美	2つの想い	準々決勝まで
入選	1	堺西	どう見える?どうみせる?	
入選	2	箕面自	さくらぐみのうた	



## ラジオドラマ部門

大阪結果	審査順	学校名	作品名	全国大会結果
1位	5	成美	俺のピンチ	準々決勝まで
2位	3	槻の木	A utopia	準々決勝まで
3位	1	成美	言葉の魔法	
入選	2	箕面自	信じる力	
入選	4	箕面自	君の胸に届け!	
入選	6	近大附	最高のトッピングを求めて	

※ 全国大会は1位と2位のみ

## テレビドキュメント

大阪結果	審査順	学校名	作品名	全国大会結果
1位	2	箕面自	ソビエト抑留記が伝えるもの	制作奨励
2位	5	府箕面	ソラノカナタ	準々決勝まで
3位	3	仰星	食道～学食の匠～	準々決勝まで
4位	4	夕陽学	学園の噂	準々決勝まで
入選	1	成美	ペンキに想いをのせて	

## テレビドラマ

大阪結果	審査順	学校名	作品名	全国大会結果
1位	3	箕面自	輝ける君たちへ	準々決勝まで
2位	2	成美	鳩が繋ぐもの	準々決勝まで
3位	5	箕面自	書記のお仕事	
入選	4	大倉	「……。」 (ちんもく)	

※ 全国大会は1位と2位のみ

## 校内放送研究発表会

大阪結果	審査順	学校名	発表名	全国大会結果
研究奨励	2	夕陽学	裏方のささいな音楽番組	研究奨励
研究奨励	3	成美	劇的! 体育祭放送向上計画	研究奨励
入選	1	成美	お昼の放送向上プラン	

## 総合優秀校

1位	77点	府立成美
2位	74点	箕面自由学園
3位	57点	四天王寺

## 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会報告

放送コンテスト委員会

例年通り、7月21日(火)～23日(木)の3日間、代々木のオリンピックセンターとNHKホールを会場に開かれました。上位入賞者・入賞作品と大阪からの出場者・作品の結果は以下の通りです。

### 【アナウンス部門】

優 勝 長崎県立諫早農業高等学校 松永 裕太郎  
準優勝 法政大学第二高等学校(神奈川県) 田中 惇也  
優 秀 青森県立弘前高等学校 副島 麗生  
広島市立安佐北高等学校 牧野 衣里

\*小寺 希実(渋谷)、福井 優佳子(仰星)、小林 咲希(渋谷)、寺澤 穂乃香(豊中)、南部 真衣(成美)、出原 桜子(被昇天)；準決勝進出ならず

### 【朗読部門】

優 勝 広島県立福山誠之館高等学校 藤井 翔也  
準優勝 仁愛女子高等学校(福井県) 松本 奈奈  
優 秀 法政大学第二高等学校(神奈川県) 小藪 秀汰  
広島県立尾道北高等学校 中村 みちる

\*田中 優希菜(市立南)、村上 美宮(市立南)、大津 佳穂(四天)、  
福田 紘奈(プール)、瀧 優華(四天)、中矢 周作(渋谷)；準決勝進出ならず

### 【ラジオドキュメント部門】

優 勝 福島県立磐城高等学校 試練の先に  
準優勝 広島県立五日市高等学校 君に伝えたいこと  
優 秀 北海道札幌国際情報高等学校 先生  
啓明学院高等学校 息子が残した宿題

\*オンナノコの子カラ(四天)、図書館危機(布施)、  
低身長系女子の希望論(夕陽学)、2つの想い(成美)；準決勝進出ならず

### 【テレビドキュメント部門】

優 勝 兵庫県立川西緑台高等学校 見えるということ  
準優勝 長野県松本深志高等学校 折衝会

優 秀 兵庫県立宝塚北高等学校 ゲキダンあるある  
帯広大谷高等学校(北海道) 10万分の1の選択

☆ソビエト抑留記が伝えるもの(箕面自)；準決勝進出 制作奨励

ソラノカナタ(府箕面)、食道～学食の匠～(仰星)、学園の噂(夕陽学)；準決勝進出ならず

#### 【創作ラジオドラマ部門】

優 勝 青山高等学校(三重県) 卓球少女ハルちゃん

準優勝 富山県立南砺福野高等学校 信じた日々、信じる未来

優 秀 島根県立飯南高等学校 I m y コール

\*俺のピンチ(成美)、A\_utopia(槻の木)；準決勝進出ならず

#### 【創作テレビドラマ部門】

優 勝 兵庫県立伊丹北高等学校 その女、スパイにつき

準優勝 佐野日本大学中等教育学校(栃木県) 1%の絶望

優 秀 鹿児島県立出水高等学校 SHARING

\*輝ける君たちへ(箕面自)、鳩が繋ぐもの(成美)；準決勝進出ならず

---

\*\* 生徒参加体験記 \*\*

<朗読部門 村上 美宮(大阪市立南高等学校)>

私は、二年生と三年生の時に朗読で全国大会に出場させていただきました。初めてのNHKホールで決勝の舞台を見た時の感動は、今でもはっきりと覚えています。ホールに響き渡る堂々とした声、凛とした立ち姿。距離はそう遠くないはずなのにその方達はとても遠くてキラキラと輝いていて、「私もその舞台に立ちたい」と、強く思いました。ですが、「去年の全力では準決勝には行けなかった。だから今年は、去年の全力を超えなければならない。」そう胸に刻んで挑んだ最後のNHK杯は、結果としては準決勝には進めず悔しいものでした。準決勝、そして決勝の舞台へと手を伸ばして伸ばして、それでも届かなかったけれど、後悔はありません。きっとこれからも、この三年間を振り返った時に、素晴らしい日々だったといつの日も思えるだろうと思います。そんな三年間を送れたこと、そして、支えてくださったたくさんの方々と巡り会えたことを、私は誇りに思います。

## 芸文祭 報告

(「第 36 回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門」報告)

大阪府立摂津高等学校 佐々木 孝夫

第 36 回大阪府高等学校芸術文化祭 (以後芸文祭と省略) は、平成 28 年 1 月 23 日の開会行事部門を皮切りに、1 月下旬～2 月初旬を中心に、東大阪サーティーホールやドーンセンターなどを会場として開催されました。

放送文化部門はそれに先駆け、平成 27 年 11 月 8 日 (日) ドーンセンターで開催しました。午前中に映像部門とアナウンス部門を開催しました。参加者が年々増加してきているので、昨年度からアナウンス部門を 2 会場に分けて審査をおこなっています。午後からはアナウンス、朗読、番組制作の 3 部門で、「高校生のための放送技術講座 (Ⅱ)」(以後技術講座Ⅱと省略) を開催しました。また、これも昨年度からはじまった、顧問会議を午後に開催しました。以下に放送文化部門、映像部門を中心に詳細を記します。

1 日 時 平成 27 年 11 月 8 日 (日) 10:00～16:00

9:45～10:00 午前の部 受付

10:00～10:15 午前の部開会式

10:20～12:00 映像部門発表 (5 階セミナー室)

アナウンス部門発表 (5 階視聴覚スタジオ・特別会議室)

13:00～13:30 午後の部 受付

13:30～15:30 午後の部開会式・放送技術講座

アナウンス部門 (5 階視聴覚スタジオ)

朗読部門 (5 階特別会議室)

番組制作部門 (5 階セミナー室)

15:30～16:00 映像・アナウンス結果発表、閉会式

2 会 場 大阪府立女性総合センター (ドーンセンター)

3 映像部門参加作品

(1) 大阪府立堺西高等学校 「百折不撓 (ひやくせつふとう)」

制作 堺西高校放送部 10 分 00 秒

(2) 堺市立堺高等学校定時制の課程 「BIREVIVE (ばいりばいぶ)」

制作 AVA CLUB (視聴覚演劇部) 21 分 44 秒

(3) 堺市立堺高等学校定時制の課程 「宝探し」

制作 AVA CLUB (視聴覚演劇部) 13 分 00 秒

※アナウンス部門や放送技術講座の詳細は、別途「技術講座Ⅱ」で詳細を報告しております。

今年度の芸文祭、放送文化部門は例年通り11月上旬の開催されました。今年度の映像部門の参加作品は例年より少ない3本でした。作品数はやや寂しかったものの、作品の質はいずれも高いものでした。

今年度の優秀賞として、堺市立堺高校定時制の過程、AVA CLUBの「BIREVIVE」と「宝探し」が選ばれました。また、府立堺西高校放送部の「百折不撓」も奨励賞となりました。

市立堺高校の「BIREVIVE」は、堺高校お得意の高校を舞台にしたSFサスペンス物で、記憶の一部を失った主人公が自分の驚異的な身体能力・記憶能力の謎を追っていく作品でした。同じく堺高校の「宝探し」は、学校内に隠された”宝”を探し求める同級生の男女2人の心の交流を描いた、心温まる作品でした。堺西高校の作品は、6人の部員しかいないソフトボール部の活動をドキュメントで取材し、応援した作品でした。

最後になりましたが、この芸文祭放送文化部門の運営にご協力いただいた役員の先生方、作品を出品していただいた各参加校の生徒及び顧問の先生方、当日見に来られた見学者の方々に心よりお礼を申し上げます。

## 全総文報告

（「第39回全国高等学校総合文化祭（滋賀大会）放送部門」報告）

大阪府立摂高等学校 佐々木 孝夫

本年度、第39回全国高等学校総合文化祭放送部門は、平成27年7月31日（金）・8月1日（土）の2日間、滋賀県の栗東芸術文化会館さきらを舞台に、アナウンス・朗読・オーディオピクチャー・ビデオメッセージの4部門が開催されました。

大阪府からは下記の出場者、出場校が代表として参加しました。

(1)アナウンス部門（大阪府より3名）

東海大学付属仰星高等学校	福井 優佳子（3年）
府立箕面高等学校	井手 佑香（2年）
府立渋谷高等学校	小寺 希実（2年）

(2)朗読部門（大阪府より3名）

大阪市立南高等学校	村上 美宮（3年）
大阪市立南高等学校	小西 麻公（3年）
大阪夕陽丘学園高等学校	秋山 紗葉（2年）

(3)オーディオピクチャー部門（大阪府より1作品）

大阪夕陽丘学園高等学校

(4)ビデオメッセージ部門（大阪府より2作品）

大阪夕陽丘学園高等学校	府立箕面高等学校
-------------	----------

## 近総文報告

〔第 35 回近畿高等学校総合文化祭(鳥取大会)放送部門〕報告)

大阪府立摂津高等学校 佐々木 孝夫

第 35 回近畿高等学校総合文化祭(以後近総文と省略)福井大会放送部門は、平成 27 年 11 月 21 日(土)・22 日(日)の 2 日間、鳥取県の米子市文化ホールメインホールを舞台として開催されました。昨年度より近総文は 2 日間の日程で開催されています。

以下に開催日時や場所、大阪代表の参加者、参加校を記します。

### 第 35 回近畿高等学校総合文化祭 鳥取大会

1. 日程 平成 27 年 11 月 21 日(土)・22 日(日) 9:00~16:30

2. 場所 米子文化ホール

〒910-0004 福井県福井市宝永 3-1-1

3. 大阪府代表出場者(出場校)

(1) アナウンス部門 (大阪府より 2 名)

東海大学付属仰星高等学校 宮原 捷 (2 年)

東海大学付属仰星高等学校 橋本 穂 (1 年)

(2) 朗読部門 (大阪府より 2 名)

大阪市立南高等学校 美馬 佐弥香 (2 年)

浪速高等学校 児玉 玲奈 (1 年)

(3) ビデオメッセージ部門 (大阪府より 2 作品)

東海大学付属仰星高等学校

大阪夕陽丘学園高等学校

## <資料編>

### 2015年コンテスト大阪大会決勝 審査委員長講評

#### 中村宏アナウンサー（NHK大阪） アナウンス・朗読部門

お疲れ様でございました。例年接戦になっておりますが、今日も上位の方は点数的にかなり接戦になっておりました。いくつか朗読、アナウンス部門をまとめてお話をいたします。他の審査員の皆様のご意見をまとめて私がお話をさせていただきます。

いくつかありますが、まず読みに関して言いますと、アナウンス朗読ともにはっきり言おうとするために力みがあるという方々が大変多かったということが言えます。我々の、皆さんが最後に目標とするところは「話すように読む」ということです。だから話しているみたいに読むということが、我々の仕事もそうなんですけれども、まあなかなかできませんけどもね。でも目標は話すように読むということなんです。そのためにはやはり無駄な力を抜いて普段しゃべっているように、あたかも普段しゃべっている様な感じで読めるというのが一番いいことだと思いますね。イントネーションが、したがって非常に不自然になっている方が多い。普段我々がしゃべる時っていうのは、最初の方が高くってだんだん下がってくるんですよ。日本語の特徴、共通語の特徴と言ってもいいと思います。ところがこれがやっぱり大阪弁の特徴なんですけども、大阪弁は高く入ってゆっくり下がるっていうイントネーションではなくて、共通語の場合はアクセントよりもずっとイントネーションが優先しますから、多少アクセントが違って、イントネーションがこうなだらかに下がっていくような、意味のまとまりの中をゆっくり下がっていく、新しい意味のまとまりはまたちょっと高くなってゆっくり下がっていく、そういう読み方をするととても自然にすっと入っていくんですが、大阪弁の場合は単語のアクセントが優先しますから単語の位置がある特定の単語はある高音の高さを持っていて、イントネーションよりも単語のアクセントを優先するって特徴がある、そういう文化圏に皆さん暮らしているわけで、ある程度そういうものが体に入っているという可能性があるわけですね。例えばどういうことかという、「サクラ」って言うのは皆さん、生まれも育ちも大阪の皆さんは「サクラ」って言うと気持ち悪いでしょ。「サクラ」は低い音って決まっているんですって。「サクラ」って。「サクラ」にはならないんですってね。皆さんの方がお詳しいんでしょうけども。例えば「今年」という単語は高い音って決まっているんですよ。だから「今年の阪神」ですね。「今年の阪神」ではおかしいわけです。そうらしいです。私も体の中では分からないんですが。でも「毎年」という音は、低いって決まっているんですって。だから、「毎年」って言うとおかしいんですって。「毎年」。ですから「今年の阪神いけるんとかやう？」「毎年いうてへんか」ってなるわけですね。共通語の場合はイントネーションが優先しますから、「今年の阪神いけるんじゃないの？」「毎年言っていないかい」ってなるわけです。だから単語のアクセントも例えば大阪の特徴として平板アクセントの中で「サクラ」が多分そうなんですけど、「サ」と「ク」と「ラ」の高さが無いんです。「サクラ」同じなんです。ところが共通語のアクセントは平板アクセントといいながら2音目が上がります「サクラ サク」「サクラ」「サクラ」「サクラ」これを平板アクセントと言っているんですよ。ところが大阪にはそういう平板アクセントと完全に全部同じ高さ「サクラ」のようなアクセントがあるわけですね。で、文の最初最後にかかわらずそういう固有のアクセントが決まっていて、例えば2音目が非常に高くなるアクセントがあるんです。そういう特徴がある方が何人もいらっしゃいました。例えば「健

康」っていうと東京では「ケンコウ」っていうんですが例えば今日の出場者の皆さんでも「ケンコウ」っていう方も結構いて「ケンコウ」これはやっぱり大阪的な平板アクセントの特徴が出ているかなという感じがしましたね。あとは速い人が多い。非常に速い人が多い。これは時間制限があるためだと思うんですね。だから本当は少し余裕をもって後は間をとる。間をとるところを印つけといて、間をとる。そういうふうにして時間を計って、部分を、読む部分を選んでおくといいと思うんですけどね。それと、今日突然お渡ししたアナウンスの課題ね、結構読みこなせてない人が、多数いらっしやいましたが、我々も例えばニュースを読むときなどは、だいたい2回くらいしか読めないんですよ、すぐ本番がきちゃいますから直前に貰いますから。そうすると1回目はタイムを出すことで純粋に時間を1分20とか1分30とか時間を出すために読まないといけませんね。ニュースですから5分でぴったり入れるために時間をこう調整しますから。でもう1回自分のために読むんです。意味をとりながら。で、プラスその際にもう本番までその原稿読めませんから、もう次の原稿、下読みしますから。どういうことをするかというと、アナウンサーはそれぞれ自分の流儀で印つけます。例えば今日渡した課題原稿でいいますと、妙な切り方をする人が多くて。例えばね、持ってない人も多いと思いますがアナウンスの今日の課題でお渡しした5行目、「真剣な表情で食べると」その後点がないんですよ。「真剣な表情で食べると」点がないから皆さん続けて読んでいる人が多くて「真剣な表情で食べるとこの一年健康に過ごせる」とずーとつながっちゃう。でもそうじゃなくて「真剣な表情で食べると」の後に小さい間があってですね。だから私だったらここに小さいブレス書くんです。でどうなるかということ「真剣な表情で食べると、この一年健康に過ごせるという笑わず餅を」で「笑わず餅」で行が変わっていますよね。だから行が変わったときに私は次の行までね、ずーとね、こういう印をつける。アナウンサーによってまた違う印をつけるんですが。でそうやって自分なりの例えば「全国和紙協会」っていうのはね、意外と読みにくいですけども、これは私だったら「全国」に丸つけて、丸で囲んじゃって「和菓子協会」を丸で囲んじゃうんですね。これは先輩が、私の尊敬する先輩がそんなふうやってたんです。ただ、これアナウンサーによっては「全国」の後に横線を入れる人がいますね。「全国」で切れるという意味で「全国」に横線を入れる。で「和菓子」の後に線を入れる人もいますが、そうやって自分なりのその印の付け方っていうのを、こう作っておくと突然原稿をもらって1回下読みして2回目意味をとりながらもっかい読んで、印をバツバツとつけておくとあとは読めてしまいます。あとは、キーワードがきちんと聞き取れないっていうのがあって、この「笑わず餅」の原稿がかなり難しいというのはわかったんですが、これがね「笑わず餅」に聞こえる人がいるんですね。「笑わず餅」と「笑わず餅」ではまったく違う内容になってしまうんで。こういうキーワード、大事な固有名詞が最初に出てくるとき、何回もしつこく言ってるとかどいんですから。だから例えば、この一年間健康に過ごせるという「笑わず餅」を販売しています。こうなるんですね。「この一年健康に過ごせるという笑わず餅を」とみなさんそうやって読んでいる。「この一年健康に過ごせるという笑わず餅を販売しています」とほら「え？え？え？なんて言ったの？」この一年健康にすごせるという「笑わず餅」をここだけ本当はゆっくりするといいいんですけど。キーワードを本当はゆっくり読む。意外と難しいんですよ。この一年健康にすごせるという「笑わず餅」を販売しています。これ、意外に難しい。一番簡単なのは間をとるとそれが立ってきますから。この一年健康に過ごせるという「笑わず餅」を販売しています。ちょっとした間をとるとかね。そういうのは印つけといて下さい。2回目に「笑わず餅」が出てきたときはもう1回目に出てるので、そこで「あっさりした味わいに仕上げた笑わず餅」でいいわけですよ。だから究極は話すように読むというのを目



指してください。それから、これもアナウンス部門ですけれどもネタをこう取材して短くまとめて、何かを人に伝えるという訓練は皆さんがこれから人生を歩いていくビジネスマン、ビジネスウーマンになる場合、そうでない場合でも人生生きていく上でとても役に立つ経験ではないのかなというふうに思います。審査員の他の先生からもでていたんですが、その、こういう人前で話すときに大事なことは、エピソードとメッセージなんです。エピソードとメッセージが大事なんです。スピーチというのはね。メッセージは何を伝えるかってことなんです。エピソードがきちんとしてないと、「何とかが大事です」って言うてもなぜ大事なのかが分からない。エピソードがきちんとしてることによって、こう腑に落ちてくる。説得力を持ってくれるんですね。そういう点で、今日は出だし立派なことを言って、ぶち上げて、まとめもとても美しいことを言っているんだけど、全然迫ってこない。なぜかというエピソードが弱いんです。だから、それはやっぱり取材であって、それから、今日審査員の他の方からでてきましたけど、取材した人の話が全部こう、大括弧の話し方になってる。台詞みたいになってる。なんでみんなそうなるのかなというふうに言うてましたら、みんながみんなそうなる必要はないんじゃないかないうふうには思います。だからね、あとね、これはアナウンスの原稿もそうなんです。人の話を聞いて、例えば一行か二行、20秒くらいまでの間に、何について話すのかということが分かってないと、聞いている人がなかなか飽きちゃうんですよ。ついて行きにくいという。だからニュースなんかでもそうでしょ。冒頭に15秒か20秒くらいのリードというのがある、あらましを言ってしまうんですよ。これこれこういうことがありましたっていうことを言った後、その後説明がくるでしょ。そういう構造にした方が非常にわかりやすいということですね。あと、インタビューを多様しすぎているんじゃないかとかね。

それから朗読についてもその作品をちゃんと全部読んでますか。読んでないとやっぱりばれちゃいますと、特に安田さんがおっしゃっていました。で、放送部の活動をやっている人は、朗読をやっている人は朗読だけでいいとか、アナウンスメントをやっている人はアナウンスだけでいいとかではなくて、やっぱり総合力だと思えるんですね。アナウンスをやっている人も朗読をやることによって勉強になるし、朗読をやっている人はアナウンスをやることによって勉強になるし、何が大事かってのがわかるし、そういう点で放送部っていうのは総合力が大事ですよっていうことを感じました。で、今日これから表彰式に入るんですけど、上位に入った人達は自分とどこが違うのかっていうところを思い出していただければと思います。以上です。

### 三鬼一希プロデューサー（NHK大阪放送局） 番組部門

皆さん大変お疲れ様でした。今日皆さんの全力の作品をですね、審査員の先生方、私も含めてですね全力で審査させていただきました。逆に普段制作をしている中からでもですね、皆さんの気づきだったりとか視点にすごくびっくりした作品も、本当に数多くありました。ちょっとね、部門別に講評をさせていただきたいと思います。こちらで審査したのが5つの部門でした。

ラジオドキュメント部門からまいります。これは本当に学校で、皆さん普段感じている、放送部員として感じているほんのちっちゃな所から、本当にこの世の中に起こっている社会全体、そういう本当に

一人一人の気づきが世の中の仕組みを、世の中の問題点をさぐっていくというものもあれば、友達との会話の中からこれどうなってんのみみたいなところから出発しているもの、本当に様々な多くのテーマがありました。そういう意味で、ドキュメントっていうものをあまり偉そうにはいえませんが、やっぱり自分の中でこれおかしんじゃないの？とか、これ面白いんじゃないの？。我々放送に携わる人、放送を志す人、放送部で所属されている人、まず自分の中でそういう気づきをもつ、違和感をもつ、面白みを見つけると、そういうことが改めて大事だなと。ここに予選を通過された方には、その人達、その制作者の思っているのが本当に深くあるんだなと確信できました。じゃ、次はそれをどう表現するかです。これはラジオという事なので耳でしか分からない、音でしか分からないという世界の中です。このためにどれだけの努力をしているか、ノイズを消すというのも一つですし、BGMの入れ方だったりとか、そういう所を本当に細心の注意を払っているというところもあるんですけども、もしかしたらこれ差し替えた方が良かったんじゃない？みたいなところもあったのも事実です。そういうトライ&エラーをして、より自分だけじゃなくてこの自分が気づいたこと、自分が感じたことっていうのを聞いている人にどうやって伝えるのかっていうのを、今後も努力というか重ねていただければ今日以上にいいものが作れるんじゃないかと思います。中にはね、本当におっさんからすると分からない女子の魅力とかですねそういったネタもありましたし、ああなるほどそうなのかみたいですね。高校生ならではとかね皆さんの本当に視点から発したのも多くありましたし、片方で自分たちの目線からもう少し大きい社会の問題、学校のありようの問題とか、歴史の問題とか本当に幅広い興味を皆さんがお持ちなんだということはすごくよく分かりました。そういうところも評価させていただいたというふうに思っていたいただければと思います。

次に創作ラジオドラマ部門です。これはいわゆる妄想に近い話ですよ皆さん。ラジオドラマってのは実はNHKでもやっておりまして、ラジオドラマの担当の人間に聞いているんですけど、ラジオドラマといえぱすね宇宙の果てまでも行けるし、地底の中にも行けると。なかなか現実のテレビドラマではできないことが何でもできますよ〜っていうふうにいわれています。実際、今回も本当にいろんな舞台設定がありました。ラジオドラマっていうフィールドを意識されて皆さんが自分の思い、自分の着想、こういう話があったらいいのになんていうのを十二分に表現していただいている作品が予選を通過したものだというふうに感じます。先ほどと同じ事になりますが、ラジオドラマの場合、特に、ここが宇宙ですといえば宇宙になる世界なので、よりそれをリアリティーを持たせるためには、比較的今回思ったことで、皆さんに今後こうやったらいいんじゃないかっていうことを一つだけ申し上げます。BGMってよく使うんですけどもね、実はラジオドラマ、テレビドラマ関わらずなんですけども、なま音というのをやっています。わざわざそのために1日スタジオを借りて、よくあるのは海の音をこうやって「ザー」ってやったりするあれですね。あれを足音レベルでここはこの靴でやりますっとかっていうのを、テレビドラマだと人の足の動きに合わせてパタパタとやっています。特にラジオドラマはそういったなま音の使い方をBGMに頼らないなま音、BGM極端な話ゼロでやってやるくらいな勢いでやると、もっと聞いている人のイメージ、目を閉じて見える世界、感じる世界が深く変わっていくんじゃないかと思います。そういう意味ではそういうものにチャレンジしていく、その設定がちょっとファンタジックなものだけではなくて、今回本当にそこで話しているような題材もありました。その制作された方なんかはそういうところをもっとね追求していくともっともっと面白い物ができるんじゃないかと

いうふうに思います。

続いてテレビドキュメント部門。これもですね本当に、学校の中の人の話、人モノっていうんですけどもね。この人面白いねってのを本当にその人の魅力をどうやって迫るかっていうカメラの位置も含めて本当に丁寧にとっているものもあれば、自分の主義というか自分の中から出たものをどうやって歴史に繋げていくかっていうようなことまで本当に幅広くできた作品がありました。中には自分たちとは普段はあまり関係ないけれども自分の興味のある人にアポイントメントをとって、その方の取材をすると。我々も普段取材をする時は、全く知らない方にしませんが話を聞く。なかなか話を聞くっていうのは大変なことなんですけれども、放送というかですね、こういう取材、ニュースとかする場合には、やっぱりそこは自分の中で軸を持って相手の話を聞くとそういうことが十分にテレビドキュメント部門は出されている作品が多かったように思います。

創作テレビドラマ部門。こちらもテレビドラマですね、映像ドラマですけども。こちらも本当に先ほど申し上げたラジオドラマよりは映像を出す部分ですごく制約がある部分で、本当にもう、いろんなネタといますかね、審査員の方々も観ているときに笑ってしまうような、思わず笑ってしまうような作品が本当にたくさんありました。本当に頭を使って、頭をクルクルクルしながら考えたんだっていうのが分かります。そういう皆さんの楽しましてやろうという熱意ですね、それをいくつか講評でも、その時の講評でも言ったんですけど、こうやったらもっと面白くなるよっていうのをぜひトライ&エラーして自分たちのモノにして、楽しんでもらうモノを作ってもらいたいというふうに思います。本当に面白かったです。

最後、校内放送の研究発表の方ですが、これもすみません僕、昔、放送部ではなかったんです。なので放送部の皆さんの事よくわかりません。高校時代にその時は8mmフィルムってわかります？8mmフィルムでテレビドラマもどきはとってたんで、そういう皆さんの熱い感じは何となく分かったんですけど、放送部がこんなに熱いとは思わなかったっていうのは正直なところで、こうやったらもっと聞いてもらえるんじゃないんだろうかっていう、本当に様々な視点から放送部の人がやってるんだなーっていうのを本当に感心して拝聴しました。で、皆さんがこうやって学校の中で放送部としてやっていくんだという思いは本当に熱いんだなってっていうのがよくわかりました。敬意を表します。

最後になんですけど、全体の話ですね。偉そうな事は言えませんが、一応放送に携わるものとして皆さんに、若い皆さんにいいたいのは、放送というかまあ、こうやってドキュメンタリーでもテレビドラマでもそうなんですけれども、自分たちの中にあるもの、こういうの面白いよねとか、あ、これおかしいよねとか、そういうものがまず気づきとか、思いの中にあって、それを形にして、で、最終的なことを考えてほしいんですよ。このおもしろさを伝えるにはこれでベストなのか。音もそうですし、映像もそうですし、どうしてもやってるとこっちの方がかっこええやんとか、こっちの方が感じええんちゃう？というふうになりがちなんですけれども、ま、我々もそうです。こうやってこうやった方がかっこいいんちゃう？とかやるんですけど、お客さん、観てる人、聞いている人がいると、放送っていうのは伝えてなんぼやと僕は思っているんで、自分の中にあるもの、自分が大事だと思うもの、自分がおかしいと思うものを形にして、だれか分からないけど分かってほしい、分かって伝えたいっていうようなことをす

と思っているので、今日の皆さんの作品はそれがすごく伝わってきました。で、ただ、これからもし放送協会なり何なりもっとそういうことをやっていきたいと思ったらもっともっと伝わる方法はあると思うので、そういうところを研究していただければと思いますし、いろいろ観て努力してもらったらもっといいものができると思います。皆さんのこれからの期待いたします。今日はどうもありがとうございました。

**大阪府高等学校視聴覚教育研究会「大阪高視研」公式ホームページのご案内**

<http://www.koushiken.jp>

NHK杯全国高校放送コンテストの要項・申込み、及び結果・講評

高校生のための放送技術講座の要項・申込み、及び結果・講評

優秀作品のストーリーミング

リンク集（Nコン公式、NHKクリエイティブライブラリ、JASRACなど）

質問メール用フォーム など

公式ブログ「大阪はひとつ！放送ぶろぐ」も開設しました。

結果速報や諸連絡などの発信を行っています。

<http://blog1.koushiken.jp>

発行日	平成28年3月31日
発行所	大阪府高等学校視聴覚教育研究会 事務局：大阪市生野区勝山南3-1-4 大阪府立桃谷高等学校内（電話）06-6712-0371
発行責任者	岩崎判二（大阪府立桃谷高等学校校長）
編集委員	久下哲也（大阪府立布施高等学校）